

徳山ゆかりの人



麗子微笑（国指定重要文化財）

絶筆『徳山風景』 岸田劉生



自画像

記念碑揮毫



川端康成書

武者小路実篤書

梅原龍二郎書

劉生は昭和四年十一月二十九日、満州（現中華人民共和国）旅行の帰路、徳山出身の画商 田島一郎氏に伴われて徳山に立ち寄りしましたが、病のため同年十一月二十日、当地で三十八歳の短い生涯を終えました。

劉生は日本洋画壇の鬼才といわれ、「麗子像」をはじめ多くの秀作を遺しています。特に「麗子微笑」、「切り通しの写生」は、国の重要文化財に指定されています。

満州で思うように仕事ができなかった劉生は、日々、海岸や街を散歩することで、心の疲れをいやしていました。

十二月一日、東山へ写生に出かけ、一枚の油絵を書き、この絵がのちに「徳山風景」

と名づけられ、油絵の絶筆となりました。

この日、写生に同行した田島氏は、そのときの様子を日記の中で次の様に書いています。

「海近い丘陵ならかな線と暖い土の色で起伏している。小山と小山の間より白壁造りの家の多い村落と、丘を静かに浮べた海面が遠近よく見える所に行く。先生お気に召し直ちに写生にとりかかれる。約一時間休みなく描かれ七分通り出来上る。近所の商業学校で小憩の後、四時頃帰宅」

徳山滞在はわずか三週間の短い時間ではありましたが、その間油絵三点、日本画約二十点を描き遺しています。

記念碑



彫刻 新制作協会 本郷 新



▲「徳山風景」油絵8号



同位置から見た東山の現況